

先天性甲状腺機能低下症の猫が副甲状腺機能亢進症を併発した1例

○大池三千男¹⁾ 坂元規彰²⁾ 樋詰俊章²⁾ 田中佑典³⁾ 渡邊謙一³⁾ 堀内雅之³⁾ 古林与志安³⁾

1) おおいけ動物病院 2) めむろ動物病院 3) 帯広畜産大学

【はじめに】猫の自然発生性の甲状腺機能低下症は非常にまれである。猫の甲状腺機能低下症は、ほとんどが甲状腺機能亢進症を甲状腺摘出や放射線ヨードで治療する事による医原性の症例である。今回、自然発生性の不均衡性矮小症を伴う甲状腺機能低下症の猫が、副甲状腺機能亢進症を併発した症例を経験したのでその概要を報告する。

【症例】日本猫、雄、2012年8月1生まれ。この日を第1病日とする。農家の牛舎で生まれ、親猫が見捨て保護した。

第30病日 嘔吐、下痢、コクシジウムの治療を実施。第93病日 BUN 30.8mg/dl、Ca 11.2mg/dl。便秘症。

第97病日 T4 0.3未満 μ g/dl、FT4 0.3未満ng/dl、TSH 1.4ng/ml。L-thyroxin (17 μ g/kg)bidで投与開始。

第109病日 L-thyroxin投与で元気消失する為、投与を一旦中止し、便秘の治療を継続した。

第136病日 28日間休薬後の検査 T4 0.5未満 μ g/dl、FT4 0.5未満pmol/L(平行透析法)と低値だった。

L-thyroxin 6.25 μ g/kgbid投与再開でも元気消失する為、1~2~3~4~7~9~11 μ g/kgbidと徐々に増加していった。

第533病日 BUN 35mg/dl、Ca 16.2mg/dl、イオン化Ca 2.11nmol/l、INTACT-PTH 7.1pg/ml、PTH-rp 1以下pmol/l。

(表)	L-thyroxin	T4	BUN	Cr mg/dl	Ca	P	Ca x P	Na
第1,365病日	9	0.7	55.1	2.6	19.7	7.2	141	159
第1,392病日	投与不可	0.4	77.4	2.8	22.1	8.1	179	173
第1,497病日	11	0.7	52.0	2.9	15.0	9.4	141	157
第1,557病日	食欲低下	-	99.8	4.9	16.0	12.7	203	160
第1,784病日	横臥・脱水	0.1未満	167.7	2.0	11.4	13.8	157	185
第1,785病日	5歳弱で死亡。翌日剖検。							

【超音波検査所見】第1,757病日、甲状腺及び上皮小体の厚さ×横径は、右1.7×2.8mm、左1.4×4.6mmと萎縮。

【病理検査所見】甲状腺は萎縮、上皮小体は腫大。エコー像のほとんどは上皮小体であった。全身に重度のCa沈着。

【考察】本症例は猫ではまれな先天性甲状腺機能低下症に、副甲状腺機能亢進症が併発し、高Ca血症と腎不全で死亡した。早期からの継続した超音波検査とイオン化Ca等の継続測定がなされれば、更なる詳細が判明したと思われる。